（県立高等学校・中学校用）

玉名高等学校（全日制）　令和３年度（２０２１年度）学校評価表

１ 学校教育目標

（ア）「令和３年度（２０２１年度）県立中学校・高等学校における教育指導の重点」を踏まえ、本校の校訓「至誠・剛健・進取」の具現化に努め、徳・体・知の調和がとれた全人教育をめざす。
（イ）これまで積み上げてきた本校の教育方針に基づき教職員が一体となって、家庭や地域との連携のもと、活力ある学校づくりをめざす。

２ 本年度の重点目標

本年度教育スローガン
「夢実現・未来への挑戦　～知性と感性を備えた若駒たれ！～」
①　玉名高等学校の生徒としての基本的な生活習慣の確立
②　授業力向上及び個に応じた相談対応、学習指導及び進路指導
③　日頃からの職員間コミュニケーションによる学校改革の推進と同僚性の向上
④　特別活動（生徒会・部活動等）を生かし、自主性や創造性、奉仕の精神などを育成
⑤　地域・保護者との連携
⑥　読書活動の推進等、言語環境の整備

３ 自己評価総括表

評価項目 大項目	評価項目 小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	業務改善・働き方改革	生徒と向き合う時間の確保	校務の削減や効率化が進み、職員の時間外勤務時間が、法令で定められた上限の範囲内となった状態をめざす。	①ＩＣＴの活用等による業務の効率化を進める。 ②時間外勤務の状況等を検証し、業務改善や業務分担を進める。	B	【成果】クラウド等を活用して各種会議資料をデータで共有し、ペーパーレス、資料印刷時間削減につなげた。 【課題】 業務の偏在を解消するに至らず、全職員の時間外勤務時間を、法令で定められた上限の範囲に収めることができなかった。
		効率的・効果的な職員研修の実施	本校が抱える課題に対して、各校務分掌において主体的に研修計画を立案し、効果的な研修が実施された状態をめざす。	①各種会議をＯＪＴと位置づけ、学校の課題解決に向けた検討を行う。 ②必要に応じて、校務分掌を超えたプロジェクトチームを編成し、課題解決に向けて検討する。	A	【成果】運営委員会で課題を共有し、各分掌部で解決策を検討する体制づくりを進めることができた。また、学校の魅力向上のためのプロジェクトチームを編成し、県外の中高一貫教育校等の視察等を実施した。 【課題】ボトムアップ型の提案が積極的に行われる学校文化の創造に向けてより一層の取組を進める必要がある。
	安心・安全な学校づくりの推進	安全点検の実施と改善	各学期に１回、教室や施設等の安全点検を実施し、点検率１００％の状態をめざす。	①健康保健部が立案し、全職員で取り組む。 ②担任を中心に、生徒の安全意識を向上させる取組を進める。	A	【成果】安全点検の実施を行い、点検箇所の不具合には素早く対応できた。 【課題】点検実施を迅速に進めるための方策を検討する必要がある。また、職員・生徒の安全意識の高揚を促す必要がある。
		緊急事態への対応力向上	高い危機管理意識と行動によって学校事故を未然に防止するとともに、緊急事態に対しても冷静かつ適切に対応できる状態をめざす。	①防災主任を中心に、危機管理マニュアル等を簡素で明確に改善する。 ②さまざまな緊急事態を想定し、適宜、訓練を計画・実施する。	A	【成果】防災主任を中心に危機管理マニュアル等を改善できた。 【課題】コロナ禍の中において実施できる、リスク回避のための実践的な訓練や研修について検討する必要がある。
学力向上	確かな学力の養成と授業の	新しい学力観に沿った授業力の向上	「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業が、よ	①Chromebookを活用し、視覚教材の提示、チャット形式の質問受付等を	A	【成果】授業におけるChromebookの活用は確実に進んだ（教師・生徒の授業における利用）。

	充実		り一層実践された状態をめざす。	実践する。 ②互観授業により、職員同士が学び会える機会を設ける。		【課題】Chromebook活用の効果について検証ができていない。互観授業については、図書・教育情報部の要望もある中で実施したが、取組に消極的な職員が多い。互観授業に替わる職員同士の学び合いの機会確保について検討する必要がある。
		授業評価アンケートの効果的な活用	授業に対する生徒のアンケート結果が、授業改善に効果的に活かされている状態をめざす。	①生徒の学習に向かう態度を評価する項目と、教師の授業を評価する項目の２部構成とする。 ②Chromebookの活用とFormsによるアンケートを実施し、回答率の向上を図るとともに、各職員が即座にアンケート結果を把握できるようにする。	A	【成果】７月に実施。アンケート結果は自動集計され、授業担当者に即座に配信された。 【課題】アンケート結果を授業改善に活かしたのか検証する仕組み作りが必要。
	個に応じた学習指導	観点別学習状況の評価規定の作成	観点別学習状況の評価を試行し、生徒一人一人の学習到達状況が適切に把握され、全職員で共有された状態をめざす。	①他校との連携を強め、情報収集する。 ②職員研修を実施し、ルーブリック作成と運用について研究する。	A	【成果】県立教育センターの指導・支援のもと、職員研修を３回実施し、令和４年度実施科目の「指導と評価の計画」作成の方向性について共通認識を図ることができた。 【課題】令和４年度以降の実施科目について「指導と評価の計画」の作成の見通しが立てる必要がある。
		習熟度別授業の工夫	学力に応じた効果的な授業が展開され、生徒の学力が確実に向上している状態をめざす。	１，２年の数学、英語、３年の数学、物理において実施するとともに、その効果を検証する。	B	【成果】当該科目において習熟度別展開授業を実施した。 【課題】教務部内での業務遂行が滞り効果の検証はできなかった。教務部と進路指導部が連携した対応を工夫（分掌部内の業務内容・担当者割の適切な見直や学びの基礎診断や模擬試験等の活用法等）が必要である。
キャリア教育（進路指導）	進路希望に応じた学力の向上	コースの特性を生かした教育活動の充実	生徒の進路希望に合わせた学力の向上と進路希望実現をめざす。	①学年集会やＬＨＲを活用して進路学習を進め、個人面談を通じて適切なコース選択等を促す。 ②文系・理系および特進クラスそれぞれの特性を生かした教科指導および教育活動を行う。	A	【成果】担任面談の実施や学年ごとの進路講話などを行い学力の基礎診断の結果等を活用して、適切なコース選択等につなげられた。また、難関大学志望者等の学力については、着実に力をつけてきた。 【課題】生徒の学習到達状況が大きく広がっており、個々に応じた適切な指導がより一層必要である。
	進路意識の高揚	生徒の進路意識を具体化するための指導の充実	生徒がより広い視野で自分の進路を考え、具体的な勤労観や職業観を持つとともに、大学での学びに関する理解を深め、進路意欲が高まった	①進路指導部で「キャリア教育講演会」、「インターンシップ」、若駒キャリア塾（職業別講話）等を企画・実施する。 ②進路指導部で、「一日若駒大学（	A	【成果】新型コロナ感染症拡大防止のために、いくつかの行事を見合わせたが、「一日若駒大学」（大学の出前授業）については、オンラインも併用して実施できた。また、看護体験についてもオンラインで実施した。 【課題】新型コロナ感染防止

			状態をめざす。	出張講義）」等を企画・実施する。		対策を考えつつ、各行事の実施方法等を工夫する必要がある。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	規範意識の涵養	生徒自ら校則に基づいて生活する状態をめざす。	①生活委員を中心に企画立案し実施する。 ②生徒が主体となって校則のあり方について考える機会を設ける。	A	【成果】生徒からの意見を活かして、来年度から男子制服の長袖、女子制服の半袖を導入することにした。 【課題】生活委員を中止とした活動が不十分であった。コロナの影響からか、心身の不調を訴える生徒が多く見られる。
		交通安全意識の励行	歩きスマホの減少、自転車通学生、単車通学生の無事故、無違反の状態をめざす。	単車通学生への指導は自動車学校や警察署と連携した活動を実施する。	A	【成果】声かけ事案等に対して、警察と連携した素早い対応ができた。 【課題】単車通学生の交通違反件数は３件、接触事故２件、自損事故２件であった。
	生徒会活動・部活動の活性化	コロナ禍の中、学校行事を創意工夫し活動する	生徒の意見や思いを尊重しつつ、現状を把握しながら適切な活動が行われる状態をめざす。	①生徒との対話を実施する。 ②実現可能な具体策を見つけ出す作業を進める。	A	【成果】コロナ禍の中、生徒会活動は活発に活動を行った。 【課題】生徒会と教師の打ち合わせどう行うか工夫する必要がある。
		文武両道の推進	活動指針に沿った部活動が計画的に実施された状態をめざす。	①部活動顧問会を学期１回実施する。 ②毎月、活動計画を把握し各部活動顧問と連携を進める。	A	【成果】限られた時間の中、効果的・効率的な部活動運営が工夫されるようになった。 【課題】各部活動の活動計画作成の入力等を、効果的かつ確実に行う必要がある。また、生徒の主体性な取組を支援する部活動指導のあり方を工夫する必要がある。
人権教育の推進	推進体制の整備・充実	人権教育推進委員会の充実	必要に応じて人権教育推進委員会を開き、活発な議論を行う状態をめざす。	①計画的に人権教育推進委員会を開く。 ②議論を実践に反映させる。	A	【成果】短時間ながらも充実した意見交換や互いのアドバイスができた。 【課題】例年並みの取組だけでなく、変化も必要である。
		職員研修の充実	人権意識の高揚に資する研修が実施された状態をめざす。	①人権教育推進委員会で望ましい研修のあり方について検討を行う。 ②可能な限り講演等の機会を設ける。	A	【成果】コロナ禍で延期されたものもあったが、動画ファイルの視聴や校長の講話などで充実した研修ができた。 【課題】時間をかけた討論やより実践的な研修の機会を確保する必要がある。
	命を大切にする心を育む指導	授業の充実	特設授業の充実と、人権教育の視点を備えた各教科の授業が実践された状態をめざす。	①特設授業について検討と改善を確実に行う。 ②授業での配慮事項等について職員間で共通理解を図る。	A	【成果】いじめ問題、拉致問題などの学習を通じて生徒の意識を高めることができた。推進委員会や学年会で共通理解を得たうえで授業が実践できた。 【課題】教材の更新も必要。
		啓発の充実	必要な情報が職員・生徒・保護者に示されている状態をめざす。	①人権教育推進委員会を通じて生徒・職員に必要な発信を行う。 ②保護者向けの通信を発行する。	A	【成果】コロナ感染者差別の防止などで生徒に直接訴えることができた。意識の高揚も図れた 【課題】保護者向けの通信は発行できなかった。
いじめの防止等	いじめの未然防止と早期発見	生徒の意識の高揚	６月の「心のきずなを深める月間」をはじめ年間を通した啓発活動が充実した状態をめざす。	①学期に１回「心のアンケート」を実施する。 ②SC便りを発行する。	A	【成果】アンケート等の実施により、いじめの実態を把握・認知し、適切な対応で解消できた事例もある。 【課題】ＳＣ便りは発行できなかった。

		職員の意識の高揚	研修会等を通して「いじめ防止基本方針」等の理解が促進された状態をめざす。	生徒支援委員会等を活用して、職員研修の充実を図る。	A	【成果】年度初めから複数回の実施で、「基本方針」の理解や支援を要する生徒の把握は進んだ。 【課題】担任（＋学年）と係との連携をもっと迅速に進める必要がある。
	生徒理解の推進	組織的な生徒支援	関係職員の生徒情報、支援策の共有された状態をめざす。	生徒支援委員会、特別支援委員会を定期的に開催する。	A	【成果】定期的に委員会を開催し情報共有を図った。生徒理解が深まるようＳＣからの指導の時間も取り入れた。 【課題】より有効な情報共有の方法を確立し、支援策の検討まで組織的に行う事ができるような支援体制づくりが求められる。
		親身になった教育相談	担任面談が充実するとともに、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用が促進された状態をめざす。	①担任面談の時間を確保する。 ②SC、SSWの活用方法について周知する。	A	【成果】ＳＣ、ＳＳＷ利用は必要に応じ実施できた。教師による相談活動等も学期始め等の時期に実施された。 【課題】情報共有の方法や初期対応等、より組織的な支援体制づくりが求められる。
地域連携（ｺﾐｭﾆﾃｨ･ｽｸｰﾙなど）	育友会との連携	学校行事での連携の充実	昨年度は学校行事が開催できず、連携する場面が少なかった。育友会との連携の再構築をめざす。	①育友会だよりの作成協力を進める。 ②体育祭、若駒祭、小岱山一周大会での協力を進める。	A	【成果】今年度、副会長が広報委員長を兼務する新体制に変わったが、今までどおりの作成協力ができている。 【課題】コロナ禍で、今年も１回少ない２回発行予定で、協力の機会は少なかった。
		育友会総会や役員会での連携の充実	コロナ禍で、会場を変更しての短時間で円滑な運営をめざす。	①本部役員との打合せを綿密に行う。 ②会運営に沿った合理的な会場利用を計画する。	A	【成果】会長を始め、育友会本部と十分な話し合いを持ち、会の準備を進めた。 【課題】学校開催に戻ったとき、参加者数を増やす総会の在り方を考える必要がある。
	開かれた学校づくり	総合型コミュニティ・スクールの円滑な運営	本年度から実施する「総合型コミュニティ・スクール」において、本校の魅力化等に向けて活発に議論が行われる状態をめざす。	①年間２回以上、学校運営協議会を開催する。 ②各委員から、幅広く意見を伺い、学校運営に活かす。	A	【成果】総合型コミュニティ・スクールへと円滑に移行することができた。 【課題】コロナ禍の影響もあり、各委員に学校教育活動の現状を把握してもらうための機会提供や、本校の魅力化等に向けた意見等を伺う機会を十分に確保する必要がある。
健康保健指導	健全な心身の育成	健康診断後の早期受診指導と治療率向上	受診が必要な生徒の意識を高め、治療率が向上した状態をめざす。	①健康診断後、治療勧告書を早めに配付する。 ②保健便り等を配付し受診を促す。	A	【成果】コロナ対応や対策で計画の変更を余儀なくされたが、学校医と随時相談の上、実施できた。治療勧告も速やかに実施できた。 【課題】治療勧告の方法や時期を再検討するとともに啓発方法も工夫し、受診率や治療率が向上するように努める。
		外部講師等を活用した健康に関する意識の高揚	心身の健康に関する意識を高め行動化できる状態をめざす。	①コロナ感染症対策を行いながら、講演会を開催する。 ②保健便りの発行等による啓発を行う。	A	【成果】コロナ感染対策への配慮をしつつ、計画どおりに講演会等を実施することができた。 【課題】リモート形式の講演で音声等のトラブルがあった。また、講演前後の指導を充実させ、効果の定着率を上げる必要がある。
	環境教	学校版ISO	環境週間の取組	①学校ISOを再策	A	【成果】学校版ＩＳＯに関連

	育の推進	の取組	が徹底された状態をめざす。	定する。 ②美化委員会の活動の充実を図る。		したペットボトルキャップ回収等の作業を定期的に行えるよう、美化委員で役割分担して実施できた。 【課題】美化委員が各クラスへ環境に対する呼びかけを環境週間に入る前に行えるよう徹底すべきだった。
		環境美化活動の推進	自ら環境美化に取り組む状態をめざす。	美化チェックを活用し、生徒の環境美化に対する意識を向上させる。	A	【成果】美化チェックを重ねる度に結果は良くなった。３日間と少ないが、ある程度意識の向上に繋がることが分かった。 【課題】環境美化へ取り組む生徒の姿に差があるように感じた。特に外庭掃除では教員の目が届かない所に課題が見えた為、改善が必要である。
新しい学びの推進	言語力向上および探究的活動の充実	読書活動の推進	充実した蔵書と利用しやすい図書館環境が整い、多くの生徒が利用している状態をめざす。	①生徒のリクエストに積極的に応じるなど、親しみやすい図書館づくりを進める。 ②図書館利用を呼びかけるとともに、「朝の読書」を実施する。	A	【成果】朝読書や図書館終礼を行い、生徒の図書館利用や本に触れる機会を増やすことができた。「考人」「リブダイアリー」の発行で読書推進も行うことができた。 【課題】集団読書用の本が古いという指摘が生徒からあった。新しい書籍や様々なジャンルのものを取り入れる必要がある。
		「総合的な探究の時間」を中心とした、学校教育活動全般における探究的活動の展開	ＳＤＧｓに関する課題探究をとおして、主体的・協働的な態度および問題解決能力を身に付けた状態をめざす。また、ポスターセッションや論文作成を通じて、高いプレゼンテーション能力を身につけた状態をめざす。	①グループ別の課題探究活動から個人による探究活動への研究の深化を図る。 ②ポスターセッションや論文などから優れた研究を選び、外部のコンクール等に出品する。	A	【成果】現３年生から始まったプログラムが完成年度を迎え、一定の流れを作ることができた。 ＳＤＧｓの観点から様々な問題に対する解決能力や、またポスターセッション等を通じてプレゼンテーション能力をつけさせることができた。 【課題】講演等が後で入ってきて、年度当初の予定時間より少なくなったため総探の時間の確保が厳しかった。生徒の作業時間の確保や準備の負担軽減が課題である。 新学習指導要領の全面施行を機に、内容の精選・充実を図る必要がある。
	ＩＣＴを利用した学習活動の充実	「先行実践校」としてICTの先端的な利活用研究の推進	日本教育工学会「優良校」に認定された状態をめざす。	①定期的な職員研修を実施することで、職員のICT活用スキル向上を図る。 ②数値目標を設定して、授業等におけるICT活用を進める。	A	【成果】コロナ禍で、年度当初よりＩＣＴを活用した授業が求められ、当初は生徒・教員ともに戸惑いが見られたが、よりよい授業作りに努めるなど徐々に先進的なＩＣＴの活用ができた。 【課題】 機械的なトラブルが起きた際の負担感が大きい。またＩＣＴが得意な生徒、苦手な生徒との格差もある。常時技術的なサポートができるような人手が必要である。
		新学習指導要領の円滑な実施	ICTを活用することで、効果的に「主体的・対話的で深い学び」	①学習活動における「習得」の場面でのICTの積極的な活用を進める。	A	【成果】ＩＣＴ活用により、新しい取り組みや視点を取り入れることができ、授業内容の改善や指導力向上につなげ

			が実現された状態をめざす。	②学習活動における「活用」「探究」の場面を重視した授業改善を図る。		ることができた。 【課題】ＩＣＴ活用に関する生徒の進度差をどのように埋めていくかが求められる。また、新学習指導要領に対応するために、総合的な探究の時間の担当者も、教育課程委員会に参加する必要がある。
中高一貫教育の推進	６年間を通じた中高一貫教育指導の充実	中高一貫教育校としてのグランドデザインの構想	中高一貫教育の方針や特色が再認識され、中高の全教職員が協働して、６年間または３年間で生徒を育成する指導体制が確立された状態をめざす。	中高連携したプロジェクトチームを編成し、併設型中高一貫教育校の特色を生かしたグランドデザインについて検討する。	B	【成果】本校生に身につけさせたい力を、校訓と３技能にもとづき「９つの資質・能力」として明確化する方向で検討を進めた。 【課題】９つの資質・能力を身に付けさせるためのカリキュラムの編成と、それらの力が身に付いたのかを検証する仕組みづくりが必要である。
		中高一貫教育校の特色を生かしたカリキュラムの構築	併設型中高一貫教育校の特色等について共通理解が深まり、カリキュラム編成に向けた方針等が定まった状態をめざす。	教育課程検討委員会を中心に、生徒に身につけさせたい力を明確化し、中高一貫教育校のメリットを最大化するための適切なカリキュラムについて検討する。	B	【成果】スクール・ミッションの原案作成及びスクール・ポリシーの策定にあわせて、本校生徒に身につけさせたい力の明確化に向けた議論を進めることができた。 【課題】中高一貫教育校のメリットを最大化するためのカリキュラム編成について、具体的な検討を進める必要がある。
	進路希望に応じた学力の向上	コースの特性を生かした教育活動の展開	文系・理系それぞれの系統の特性を生かした教育活動を行い、生徒の進学希望が実現された状態をめざす。	①教務部を中心に、学年・教科と連携して取り組む。 ②教務部と進路指導部が連携し、各学年での実施をサポートする。	A	【成果】習熟度別の授業や課外を実施し、生徒の進路希望等に応じた指導ができた。 【課題】附属中在校生の進路希望の情報共有と高校１年次からの進路指導（文理選択や進路希望に応じた学力をしっかりと身につけさせる）の強化を図る必要がある。
		個別に最適化された学びの保障	学習到達状況に応じて、それぞれの生徒の学校生活満足度が高まるとともに、進路希望が実現された状態をめざす。	①プロジェクトチームを設けて、高進アドバンスクラス設置について検討する。 ②普通科改革進展の中での本校のあり方を検討する。	B	【成果】普通科改革の方向性を踏まえ、学校の魅力向上のためのプロジェクトチームにおいて、本校のあり方について議論を開始した。 【課題】高進アドバンスクラス設置の議論とあわせて、個別に最適化された学びを保障するための具体策について議論を進める必要がある。

４ 学校関係者評価

【学校経営】

・働き方改革については、６年間スパンで余裕を持った運営ができないか。これが中高一貫の魅力にもつながる。
・業務改善については、業務の偏在により一部低評価であるが、６割以上が達成できているなら高評価で良いと思う。 業務の中には、思い切ってやらない選択肢があっても良いと考える。
・学校の業務改善、働き方改革を教師が実感するように推進することが生徒への教育の充実の近道であると思う。思い切った改革、これまでの教育活動の内容を検討し、本当に残す必要があるもの、無くしていいものを明らかにする必要がある。無くすことができなければ、教師の負担感は増すばかりで、教師を目指す人もいなくなるように思う。
・学校の取組を管内の中学校等に発信する手立てを工夫することで、本校の魅力がもっと伝わり、生徒募集にもつながるのではないだろうか。
・「中高一貫」のアピールは高校から玉名高校を選ぶ生徒への逆アピールとなるというジレンマがある。

【学力向上】
・学校は知識を修得する場ではなく、学ぶ力を得る場となってほしい。
【キャリア教育（進路指導）】
・玉名高校の魅力は「大学進学」というイメージが強い。本当の魅力をもっと発信すべき。
・個人的な経験では、玉名高校での色々と工夫された先生方の取り組みから得られた体験は通常のカリキュラムでは得られない、生涯に渡っての学びの基礎や生きる知恵の元になっている。
【生徒指導】
・生徒指導（基本的生活習慣の確立）の項目で生徒の意見が生かされ、女子制服の半袖を次年度導入することは、大変評価できる。玉名高校の卒業生として、学生時代より「なぜ？」という思いを持っていた。
・生徒指導の項目において、コロナ禍にあっても活発な生徒会活動が行われていることに敬意を表したい。
【人権教育の推進、いじめの防止等】
・いじめの防止等（いじめの未然防止と早期発見）の項目で学期に1回の心のアンケートを実施とあるが、年に２回ではなく、内容をいじめに絞った形の簡単なアンケートを行う必要はないのかと感じる。
【地域連携（コミュニティー・スクール）など】
・本年度、学校運営協議会を２回開催した。委員の皆様から本音で忌憚のない意見が出された。会に対する信頼感の表れだと嬉しく思う。
・玉名市との連携を、さらに密接に図りながら、学校教育活動の充実に努めてほしい。
【健康保健指導】
・コロナウイルス感染症対応に関する取り組みは素晴らしい。
【新しい学びの推進】
・新しい学びの推進（ＩＣＴを利用した学習活動の充実）で先生方の負担感も高いものと思われる。ＩＣＴの活用が手段ではなく、目的にならないように注意する必要がある。
【中高一貫教育の推進】
・中高一貫教育の推進について職員が課題意識を持っていることは重要であり、地域と一体となって考えていく必要がある。
・中高一貫教育の推進の項目において、本校の大きな特色（売り）となる部分の自己評価が低いところが気になるが、全体的にもう少し高く評価してもいいと感じる。今後更に中高一貫教育の魅力化アップに対する施策の推進を図っていただきたい。
【その他全般】
・自己評価が辛口である。それぞれの項目について、コロナ禍の中でしっかりと取組がなされ、成果も上がっている。
・生徒にも職員の頑張りが伝わると良い。
・学校評価アンケート（生徒用）の「玉名高校に入学して良かった」の項目について、「そう思う」が増えてもらいたいと思う。
・アンケート評価を見るに、全般的に、生徒、保護者の評価も高く、また、自分自身も育友会の代表として関わらせて頂く中で、教育活動全般において高く評価したいと考える。引き続き、本校の魅力化アップ等、ご尽力頂きたい。
・生徒の満足度に比して、保護者の満足度が低い。実際に体験している生徒の満足度が高いので有効な施策を実施されていると理解している。

５　総合評価

【全般】
・学校関係者評価委員会のご意見を踏まえ、自己評価を再点検し、成果をより重視した達成度を評価する。
【学校経営】
・業務改善・働き方改革について、ＩＣＴの積極活用等によるできうる限りの業務改善に努め、一定の成果をあげることができた。本年度は、コロナ禍の中で、部活動や課外活動に制約があったことも、職員の在校等時間の縮減に大きく寄与したと考えられる。通常の教育活動が再開された場合を想定した対応について引き続き検討していく必要がある。
・安心・安全な学校づくりの推進について、コロナウイルス感染症対策を中心に、高い危機意識を持って教育活動に取り組むことができた。コロナ禍の中、学校行事の実施に向け、何ができるかを職員・生徒・保護者が一体となって考え、取り組むことができた。
【学力向上】
・確かな学力の養成と授業の充実について、生徒一人一人の学力分析と授業改善はセットで行われるものである。今年度実施した職員研修や授業アンケートが確実に授業改善に生かされるように、職員同士の学び合いを活発にしていかなければならない。また、職員一人一人が新しい学力観へのアップデートが確実かつ円滑に行われるように、図書・教育情報部や進路指導部と連携しながら、組織的に取り組んでいく必要がある。
・個に応じた学習指導について、習熟度別展開授業は可能な限り実施してきた。今後は、習熟度別展開授業の効果の検証及び習熟度別展開授業を実施できない科目の対応を検討していかなければならない。そのためには、生徒一人一人の学力を複数の視点から把握する必

要がある。模擬試験だけでなく定期考査や学期成績等も詳細に分析し、観点ごとの学習状況の評価を生徒一人一人と共有し、個に応じた目標設定と目標達成のための道筋をつけていく取組みを行っていかなければならない。

【キャリア教育（進路指導）】

・生徒の進路意識向上を図る上で注意したいことは、生徒の進路に対する意識も多様化していることである。今後も、大学進学を中心とした進路指導を行うことに変わりはないが、その受験については、総合型選抜や学校推薦型選抜の募集枠の拡大や一般入試への面接等の導入拡大にも応じることができるよう、高い進路意識を育成する必要がある。総合的な探究の時間等の探究活動の充実を図る必要がある。また、面談等を通じて生徒一人一人に応じた対応を工夫することも肝要であると考える。さらに、公務員や専門学校進学を考える生徒への対応も視野に入れる必要があると考える。

・各生徒の進路希望に応じた学力の向上を図る上で、生徒に主体的な進路学習力、教科学習力を身に付けさせるための方策をさらに工夫し、実践する必要がある。授業や課題、考査問題等の工夫や個別面談の内容を改善し、学習への取り組みの改善を図りたい。また、進路学習を通じて、高校で身に付けるべき基礎的な教養（リベラル・アーツ）をしっかりと身に付けさせる工夫も必要だと感じている。

【生徒指導】

・基本的生活習慣の確立について、生徒が主体性を発揮し、充実した学校生活を送ることができるよう、生徒との対話をより一層重視しながら、改善に向けて取り組んでいきたい。

・生徒会活動・部活動の活性化について、若駒チャレンジ事業に生徒会が中心となってエントリーし、有志を募って被災地支援を行うなど、コロナ禍の中でも活発に活動を行った。今後もその活動を継続していく。部活動においては年間計画の作成を行い、生徒が長期的に様々なことにチャレンジできるように自主的に計画がたてられるようにしていきたい。

【人権教育の推進】

・推進体制の整備・充実について、校内職員研修は短時間ながらも、校長講話をふまえた充実した意見交換や互いにアドバイスしあう機会となった。校外研修はコロナ禍で延期されたものもあったが、動画ファイルの視聴などで一定成果はあった。

・命を大切にする心を育む指導について、いじめ問題、拉致問題などの学習を通じて生徒の意識を高めることができた。委員会や学年会で共通理解を得たうえで授業が実践できた。コロナウイルス感染症に係る差別防止などについては、生徒に直接訴え、意識の高揚を図ることができた。

【いじめの防止等】

・いじめの未然防止と早期発見について、アンケートを実施し、いじめの把握・認知、適切な対応で解消できた事例がある。いじめ防止等対策委員会や生徒支援委員会を年度初めから複数回の実施し、「基本方針」の理解や支援を要する生徒の把握は進んだ。通常の生徒観察等からのいじめ発見等にも力を入れ、生徒が安心して過ごすことができる学校づくりに努めていきたい。

・生徒理解の推進について、生徒情報の共有が進むよう、会議の持ち方、資料共有等を検討してきた。より改善できるよう、委員会等組織の活性化し、生徒の実態に応じた指導支援を目指したい。

【地域連携（コミュニティー・スクールなど）】

・育友会との連携について、コロナ禍のもと、様々な制約があったが、育友会の積極的な支援の姿勢があり、できうる限りの連携を図ることができた。協力に深く感謝したい。

・開かれた学校づくりについて、総合型コミュニティー・スクールの運営については、非常に順調であった。会長による円滑な議事進行により、委員の方々の間で、率直かつ忌憚のない意見が交わされ、本校のさらなる魅力向上につながる提言が数多く出された。提言にもとづき、地域とのさらなる連携の機会を図りながら、教育活動の充実・発展に努めていきたい。

【健康保健指導】

・健全な心身の育成について、心身の健康の保持増進ができる生徒の育成をめざして、健康教育等を実践してきた。生徒の健康と安全を守れるよう、今後も健康管理、保健管理を行い、学校生活全般を通して指導、支援を継続していきたい。

・環境教育の推進について、美化委員を中心に環境週間や環境美化活動に取り組むことができた。また、美化委員と保健委員が掃除の取り組み状況等をチェックする「美化チェック」にも積極的に取り組み、生徒の環境美化に対する意識を高めることができた。しかし、取り組む生徒の姿に差があるので、今後は活動方法について改善をしていく必要がある。

【新しい学びの推進】

・言語力向上および探究活動の充実について、時間の確保が厳しい中でも、ＳＤＧｓの観点から課題研究に取り組み、ポスターセッションやそれに対するchromebookを活用してのフィードバックを行うことができた。教育課程の変更に伴い、探究活動の内容を再度精査しマイナーチェンジをしていく必要がある。

・ＩＣＴを利用した学習活動の充実について、職員研修の充実を図り、chromebookを積極的に活用した授業づくりを推進することができた。また、年度を通じて、職員・生徒のＩＣＴ活用のスキルアップを図り、ＪＡＥＴ（日本教育工学協会）による教育情報化優良校認定を受けることができた。

【中高一貫教育の推進】
・６年間を通じた中高一貫教育指導の充実について、学校関係者評価の指摘を踏まえ、アンケート結果に表れた職員の課題意識を分析し、今後のあり方について、学校（職員・生徒・保護者）にとどまらず、地域と一体となって考えていく必要がある。
・進路希望に応じた学力の向上について、個々の生徒の状況に対応することが難しくなる一方である。中・長期的な視点を持ち、生徒の主体性や積極性を喚起するための教育活動の工夫を、関係機関との連携を図りながら推進していく必要がある。

６ 次年度への課題・改善方策

【学校経営】
（課題）働き方改革において、通常どおり部活動等を実施できるようになった際の、職員の在校等時間の上限指針の遵守に向けた方策をどうするか。
（改善方策）学校の魅力向上および魅力発信については、地域等の学校外部資源を活用するなどして、まずは在校生・保護者の学校満足度を高めるための取組を推進する。そして、その裏付けのもと、地元の中学生・保護者等に魅力を伝えていきたい。
【学力向上】
（課題）新しい学力観について、職員の意識改革を進める必要がある。また、併設型中高一貫教育校として６年間を見据えた教育計画の策定及び育てたい生徒像の明確化が急務である。新学習指導要領の本格実施に併せて、個人の取組に頼っている現状から、組織的な学力養成や授業充実の取組へと大転換する時期にある。
（改善方策）６年間の教育計画策定委員会の設置し育てたい生徒像やそのためのスケジュールを明確にした上で、１，２年生を対象とした学力検討会（兼進路検討会）を実施し、短いスパンで生徒の成長を検証していく。
【キャリア教育（進路指導）】
（課題）この２年間、コロナ禍によりオープン・キャンパスやインターンシップ活動、体験活動などの進路学習の機会が制約された。特に、仕事の現場で働く人たちとの交流機会がほとんどない状態である。また、キャリア教育講演会も開催できていない。こうした外部の方と接する機会を作り直すことで、生徒に適切な刺激を与えたい。
（改善方策）リモートで何がどこまでできるのかがおおよそ見当が付けられるようになり、その効果や課題も理解が進んできたと感じている。次年度は、今年度以上にリモートを活用して進路行事を開催し、可能な限り生徒が外部の方と接する機会を増やしたい。
【生徒指導】
（課題）個性を尊重しながらも、成すべきことを必ず行うという姿勢や態度の育成にも取り組むことが必要である。
（改善方策）生徒会や各種委員会と連携する機会を増やしながら、生徒からのアイデアを数多く引き出していく取組を工夫していきたい。
【人権教育】
（課題）例年の取組だけでなく、教材の更新など変化も必要である。時間をかけた討論やより実践的な研修の機会を確保する必要がある。保護者向けの通信はあった方が良い。
（改善方策）同和問題（部落差別）をはじめ、近年のおける人権・差別に対する知見の深化を踏まえた新しい教材を取り入れたい。また、学校ＨＰなどＩＣＴを活用した啓発と連携も進めたい。
【いじめの防止等】
（課題）担任・学年と係との連携をもっと迅速に進める必要がある。
（改善方策）情報集約を迅速に行うよう職員への周知を徹底する。いじめ認知後の対応も同様である。
【地域連携（コミュニティー・スクールなど）】
（課題）「育友会との連携」ついては、コロナ禍の限られた環境の中で、総会、育友会だよりの作成、高３生への応援行事など、できる範囲で会長・本部役員と連絡を密にして実施することができたが、コロナ前の連携体制を経験されている方は年々減ってきている。今後フルサイズでの育友会行事の実施、連携については不安がある。
（改善方策）各行事連携で、急にフルサイズの協力を互いに求めすぎないように、育友会会長、本部役員としっかりと話し合いをもち、環境変化に徐々に適応していく形で行事連携を行っていく。
【健康保健指導】
（課題）コロナ禍も長期化し多くの変化を余儀なくされ、心身の不調を訴える生徒も増えていると感じる。ストレスマネジメント教育等の充実も検討する必要がある。
（改善方策）
健康教育の講演会の実施方法や内容の検討をすすめ、ストレスマネジメント教育等の充実も検討していく。また、児童生徒の変調等を察知できるよう、ストレスチェックや健康相談等も充実させていきたい。
【新しい学びの推進】
（課題）
１．情報モラル教育の更なる充実が必要である。
２．ICTに関して、教員間の学び合う環境作りが必要である

３．授業及び家庭学習におけるChromebook活用の充実が必要である。
４．当初掲げていた「資質能力」を生徒が身につけているかの検証が不十分であり、資質能力そのものの精査が必要である。

（改善方策）
１．学期１回の定期的な情報モラル啓発の実施
２．ニーズに合わせた研修（グループワーク）の充実
３．予習、復習、課題提出などでのChromebook活用の促進
４．探究の目標と本校生徒に求める資質能力とをリンクさせ、内容のマイナーチェンジを行う。

【中高一貫教育の推進】
（課題）中高一貫教育校として、中高６年間の教育計画と高校３年間の教育計画の連携・融合等により、生徒・保護者の学校生活満足度の向上等を図る方策をどうするか。
（改善方策）次年度は、中高６年間および高校３年間を見通した教育活動計画を再構築し、カリキュラム・マネジメントをとおして学校改善につなげていきたい。